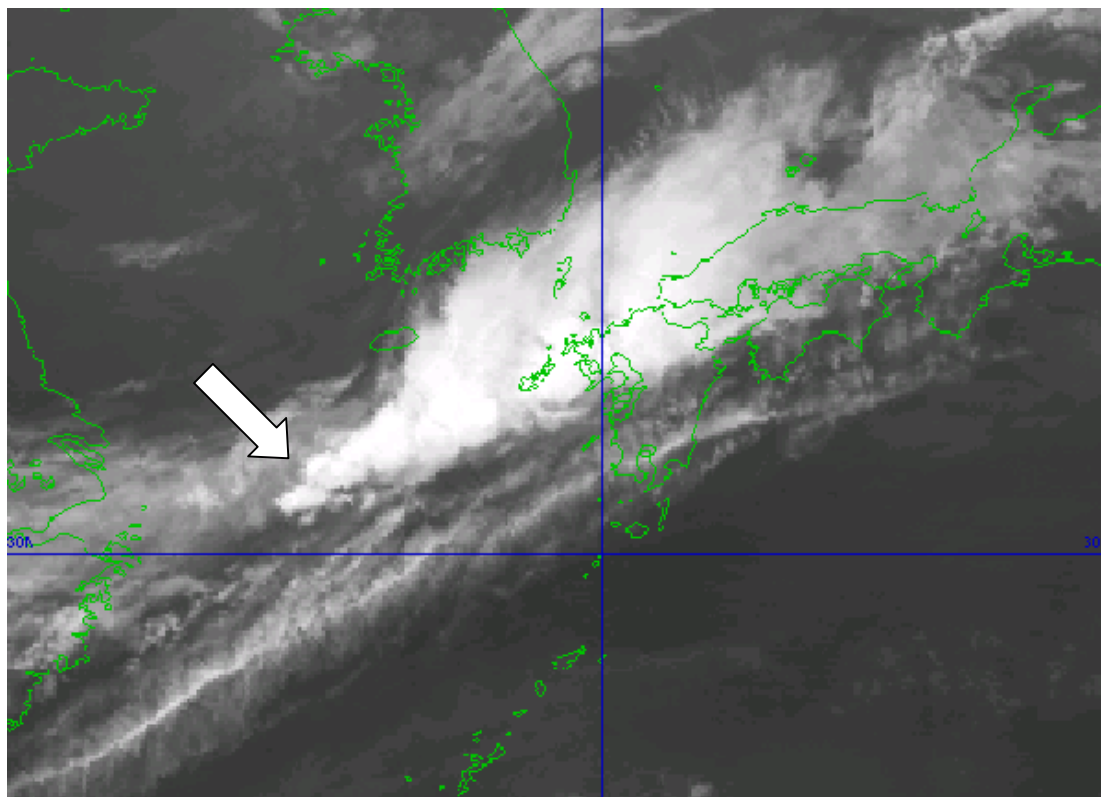


今月の気象衛星画像 (2004年6月)



2004年6月27日06時の赤外画像

テーパリングクラウドとつつ巻

6月27日朝、佐賀県でつつ巻が発生した。特に、佐賀市では、幅約200m、長さ8kmにわたって、電柱の倒壊、自動車の横転、住宅300棟以上の屋根がはがされるなど多大な被害を受けた。気象庁の1971年からの統計では、100戸を超す被害が出たつつ巻は全体の5～6%で今回のつつ巻はかなり大きな部類に入る。

写真は27日6時の赤外画像である。華中から西日本にかけ梅雨前線に対応する雲バンドが東西に伸びている。なかでも、東シナ海から九州北部に見られる白く輝く雲の付近には日本の南に中心を持つ太平洋高気圧から暖かく湿った気塊が流入し、発達した積乱雲が毛筆状（あるいは、にんじん状）を呈している。このような風上にむかって次第に細くなっている雲域（矢印）をテーパリングクラウドと呼び、この雲の下では激しい雨や雷・突風・雹などのシビア現象が起こり易いことが知られている。佐賀市や鳥栖市を襲ったつつ巻は、この時間長崎県五島列島付近にある積乱雲が通過する際に発生したものである。

なお、佐賀地方気象台による被害状況等の詳細な現地調査の結果、佐賀市でのつつ巻による突風は最大で50～69m/s程度と推定された。

(気象衛星センター)